

**令和4年度 第1回**

**岡山県自立支援協議会 就労支援部会**

**会議資料**

**日時：令和4年8月30日（火）**

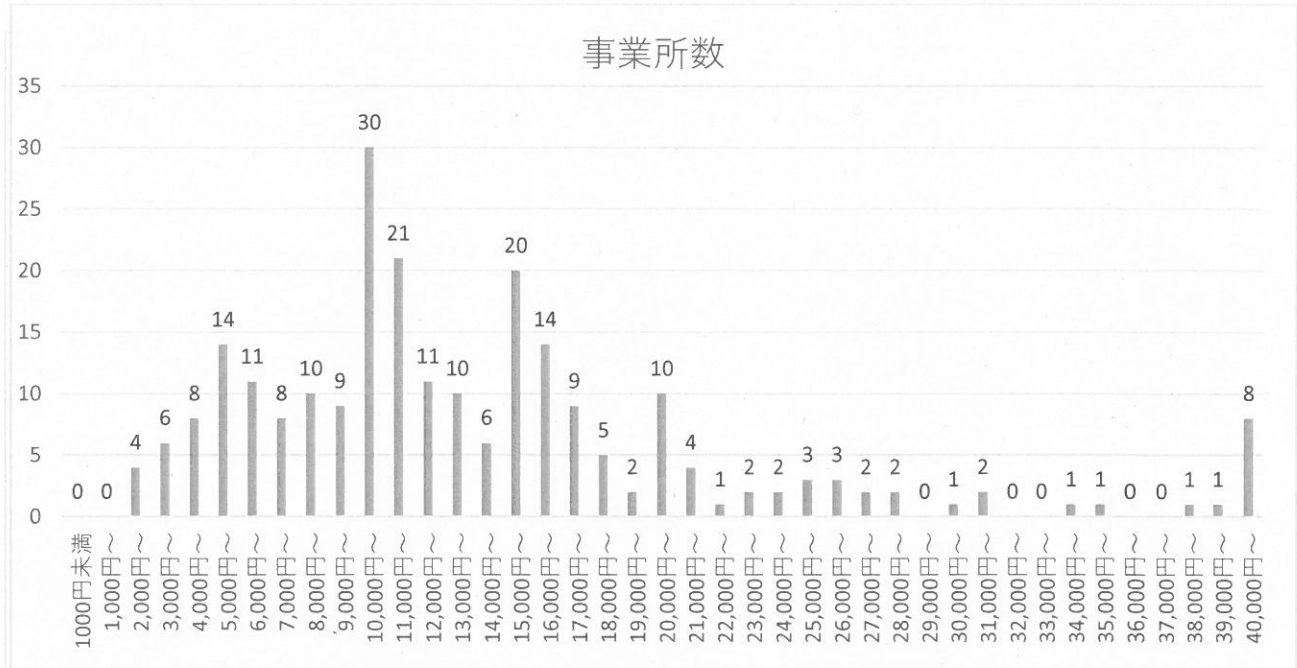
**場所：県庁3階 大会議室**

**岡山県保健福祉部障害福祉課**

## 岡山県内の工賃（賃金）の現状等

## ○令和3(2021)年度平均工賃月額実績の状況(就労継続支援B型事業所)

令和3(2021)年度平均工賃実績について、利用実績があったと県に報告のあった就労継続支援B型事業所(242事業所)を取りまとめたところ、その内訳等は次のとおりとなっています。



このグラフは、千円刻みで工賃実績月額別に事業所の数を見たものです。

最も多い金額帯は、1万円台で30事業所あります。この金額帯を中心に5千円台から1万5千円台の間にかけて計150事業所があり、これらで全体の2/3を占めています。目標工賃月額(15,000円)を超えたものは94事業所にとどまりました。

その一方で、目標工賃月額の2倍(30,000円)を超えるものが15事業所あります。

## ○週平均労働時間別の平均工賃月額

週平均労働時間	事業所数	平均工賃月額
25時間以上	33	18,469円
20～25時間	63	18,232円
15～20時間	60	15,211円
10～15時間	61	11,538円
10時間未満	25	6,982円
1事業所平均18.0時間	242	14,805円

※1人当たりの週平均労働時間が20時間未満の事業所は146事業所と全体の約2/3を占めていますが、これらの事業所の平均工賃月額は目標工賃月額を下回る結果になっています。

この表は、一人当たりの週平均労働時間ごとに事業所をグループ分けし、グループごとに平均工賃月額を算出したものです。

週平均労働時間は、8割近い事業所が、10～15時間、15～20時間、20～25時間の時間帯に大差なく分散しています。週平均労働時間が短くなるにしたがい、平均工賃月額も下がり、10時間未満の事業所(25事業所)では、6,982円となっています。

なお、事業所全体では、1事業所当たりの週平均労働時間は、18.0時間です。

○工賃(賃金)月額実績の年度別推移



B型事業所は、過去5年間に事業所数で187事業所から242事業所へと3割近く増加し、定員も約1000人増加しました。

工賃月額、令和2年度は減少しましたが、それ以外は上昇傾向にあります。

就労継続支援B型事業所

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
工賃月額 (円)	11,829	12,126	12,873	13,254	13,691	14,160	14,741	14,913	14,643	14,805
伸び率	6.79%	2.51%	6.16%	2.96%	3.30%	3.43%	4.10%	1.17%	-1.81%	1.11%
伸び率の平均		5.15%			3.23%			1.15%		
事業所数	134	145	160	166	175	187	200	215	222	242
定員合計 (人)	2,728	3,006	3,331	3,470	3,663	3,958	4,217	4,533	4,707	5,096

(参考)



A型事業所は、過去5年間に事業所数、定員ともに減少しています。

工賃(賃金)月額は、微増ながら上昇傾向にあります。

就労継続支援A型事業所

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
賃金月額 (円)	65,793	67,005	68,582	71,757	72,028	74,659	78,108	80,502	81,514	83,430
伸び率	-1.63%	1.84%	2.35%	4.63%	0.38%	3.65%	4.62%	3.06%	1.26%	2.35%
伸び率の平均		0.86%			2.89%			2.98%		
事業所数	80	104	126	153	170	161	147	137	130	125
定員合計 (人)	1,339	1,789	2,336	2,818	3,201	2,901	2,555	2,479	2,362	2,316

## ○工賃支払額と労働時間数の推移

年度	事業所数	工賃支払総額	労働時間数 (※1)	工賃支払対象者人数 (※2)	平均工賃額 (※3)
平成28年度	175	581,607,673円	81時間/人・月	3,540人/月	170円
			3,431,125時間	42,481人	13,691円
平成29年度	187	624,590,159円	76時間/人・月	3,676人/月	185円
			3,373,503時間	44,111人	14,160円
平成30年度	200	686,687,132円	76時間/人・月	3,882人/月	194円
			3,535,181時間	46,582人	14,741円
令和元年度	215	733,439,310円	75時間/人・月	4,098人/月	198円
			3,706,540時間	49,180人	14,913円
令和2年度	222	740,829,793円	75時間/人・月	4,216人/月	196円
			3,788,734時間	50,593人	14,643円
令和3年度	242	787,939,829円	74時間/人・月	4,435人/月	201円
			3,927,079時間	53,220人	14,805円

(※1) 労働時間数 上段：1人当たりの月労働時間数 下段：総労働時間数

(※2) 工賃支払対象者人数 上段：1月当たりの工賃支払対象者人数 下段：工賃支払対象者延人数

(※3) 平均工賃額 上段：平均工賃時間額 下段：平均工賃月額

## ○県における障害者就労支援施設等からの物品等の調達実績

令和3(2021)年度調達実績

種類		件数	金額
役務		247件	25,073千円
	印刷	91件	13,956千円
	クリーニング	83件	456千円
	清掃・施設管理	15件	6,366千円
	情報処理・テープ起こし	5件	98千円
	飲食店等の運営	0件	0千円
	その他の役務	53件	4,197千円
物品		57件	6,009千円
	事務用品・書籍	23件	1,285千円
	食料品・飲料	6件	291千円
	小物雑貨	20件	4,045千円
	その他の物品	8件	388千円
合計		304件	31,082千円

過去6年間の推移

年度	件数	金額
平成28年度	271件	20,927千円
平成29年度	347件	18,731千円
平成30年度	324件	20,127千円
令和元年度	377件	24,254千円
令和2年度	251件	25,777千円
令和3年度	304件	31,082千円

## ○福祉施設から一般就労への移行者数

令和3(2021)年度移行者数実績

就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)	移行者数計
191人	100人	53人	0人	0人	13人	357人

## 過去9年間の推移

年度	移行者数	H24年度からの増加割合
平成24年度	99人	—
平成25年度	124人	1.3倍
平成26年度	150人	1.5倍
平成27年度	199人	2.0倍
平成28年度	180人	1.8倍
平成29年度	310人	3.1倍
平成30年度	411人	4.1倍
令和元年度	350人	3.5倍
令和2年度	324人	3.3倍
令和3年度	357人	3.6倍

※福祉施設から一般就労への移行者数については、令和3年度は平成24年度の移行者数の約3.6倍と大幅に増加しています。

※移行者数の数値把握について

- ・平成24年度～27年度は「就労移行等実態調査」の報告数値(国調査)
- ・平成28年度は市町村、平成29年度以降は事業所からの報告数値(県調査)

# 令和4(2022)年度 県における主な障害者雇用対策

R4.8.30 岡山県労働雇用政策課

## 1 障害者雇用の普及・啓発

### (1) 雇用の場の確保に向けた要請行動

知事、教育長及び岡山労働局長による経済団体への要請行動や3者連名による県内事業主に対する要請文の発出により、障害のある人の雇用の場の確保や法定雇用率達成企業数の拡大を働きかけるとともに、法定雇用率制度の周知・啓発を図る。

《R3(2021)年度》 6/2 《R4(2022)年度》 6/7

### (2) 普及・啓発

優秀勤労障害者や障害者雇用優良事業所の表彰、セミナー等を行う「障害者ワークフェア・インおかやま」を開催し、障害のある人の適性や能力に応じて就業の場が確保され、雇用の安定が図られる社会の実現に向けた普及・啓発を図る。

《R3(2021)年度》 11/8 (ピュアリティまきび) 参加者74名

(表彰) 知事：個人3名、事業所1社 部長：個人6名、事業所6社

## 2 障害のある人の雇用・就業の促進

### (1) 障害者就職準備講習会・就職面接会の共同開催

#### ① 就職準備講習会

岡山労働局(ハローワーク)と連携して特別支援学校高等部の生徒(1・2年生)に対して、就労の意義と職業人としての心構え等必要な知識を身につけることを目的として、企業訪問による職業講話聴講や職場見学会を実施し、職業的に自立する意欲を高める。

《R3(2021)年度》 11/5 岡山西支援学校、12/1 岡山聾学校、12/10 岡山南支援学校

#### ② 就職面接会

岡山労働局(ハローワーク)と連携して求職中の障害のある人に対して、障害のある人の雇用を検討している企業とのマッチングを行う就職面接会を開催し、障害者雇用の促進を図る。

《R3(2021)年度》 県下9ハローワークで開催

参加企業 53社、参加求職者 202人、就職者数 34人

### (2) 障害者就業・生活支援センター

#### ① 指定(障害者の雇用の促進に関する法律 第27条)

就業及びこれに伴う日常生活等の支援を必要とする障害のある人に対し、身近な地域において必要な指導や助言、その他の支援を行うため、国が委託設置する「障害者就業・生活支援センター」の指定を行う。

備前圏域：社会福祉法人旭川荘 (H14(2002). 5. 7指定)

倉敷・井笠圏域：社会福祉法人倉敷市総合福祉事業団 (H16(2004). 7. 1指定)

津山・勝英圏域：社会福祉法人津山社会福祉事業会 (H19(2007). 4. 1指定)

高梁・新見圏域：社会福祉法人旭川荘 (H28(2016). 7. 1指定)

《R3(2021)年度》 ※就職件数にA型事業所を含まず。

備前	登録者	1,010名	就職件数	94件
倉敷・井笠	登録者	569名	就職件数	108件
津山・勝英	登録者	751名	就職件数	95件
高梁・新見	登録者	171名	就職件数	20件

## ②岡山県障害者就業・生活支援センター事業

上記①のうち、備前圏域及び倉敷・井笠圏域に設置されている障害者就業・生活支援センターにおいて、増大し多様化する障害のある人の要望にきめ細かに対応できるよう支援体制の充実を図ることを目的とする。なお、就業支援部分は労働雇用政策課、生活支援部分は障害福祉課が所掌している。

## (3)手話相談員

耳の不自由な人に対する職業相談を円滑に実施するため、岡山、倉敷中央、津山のハローワークに各1名ずつ配置。各ハローワークで年間12日（倉敷中央は18日）。

## (4)障害者雇用促進アドバイザー派遣

障害のある人の雇用を検討している中小企業等に、「障害者雇用促進アドバイザー」を派遣して適切な相談・助言を行うとともに、採用担当者向けの実地研修等を行い、障害者雇用の促進を図る。委嘱者は7名。

《R3(2021)年度》 相談・派遣 2件

## (5)障害者雇用促進会議（セミナー）

法定雇用率を達成していない企業を対象にしたセミナーを岡山労働局（ハローワーク）と共催

《R3(2021)年度》 新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず

## (6)障害者委託訓練

高等技術専門校が窓口になり、企業、社会福祉法人等、地域の多様な委託先を活用し、障害者の能力、適性及び地域の障害者雇用ニーズに対応した委託訓練を機動的に実施することにより、障害者の就職促進を図る。

また、早期訓練コースとして、就職を希望しているが就職先が内定していない特別支援学校高等部3年生を対象とした訓練を実施しており、教育・福祉から一般就労への切れ目のない就職支援を行っている。

《R3(2021)年度》 応募者 5名（修了者 3名）

# 令和4年度 農福連携都道府県専門人材育成支援事業

## 1 農福連携技術支援者の育成

### (1) 農福連携技術支援者育成研修（農業版ジョブコーチ育成研修）の開催

農業者が障害者を受け入れる際に農業現場において関係者に実務的なアドバイスを行う「農福連携技術支援者（農水省認定）」を育成する。

受講者：農福連携の支援に関わっている者、関わろうとする者

※農業普及指導員、JA営農指導員を含む

内容：障害者への接し方、農業現場における障害者就労の実践的アドバイス

農業技術、作物の栽培特性や障害特性を踏まえた作業アドバイス

※状況に応じてWeb研修会とする。

実施時期：11月7～9日、11月17日、12月12～14日の7日間

### (2) 農福連携スタートアップの支援

三徳園に「農福連携農園スペース（野菜）」を設置。

ぶどうと桃における作業方法について専門家を含めた支援チーム（作業療法士、三徳園、普及、サポートセンター等）による検討を行う。また、農家ほ場において、現地実証を行う。

#### ①検討作業（案）

ぶどう：新梢管理、花穂管理、収穫、パック詰め等 桃：袋かけ、収穫等

※農福連携できる作業の洗い出し、作業内容の伝え方・実施方法の検討等

#### ②役割分担

三徳園：野菜ほ場の「農福連携農園スペース」栽培管理。

果樹作業方法の検討：支援チームへの参加、検討現場・資材の提供、必要に応じ原状復帰

サポートセンター：果樹作業方法の検討の準備、支援チームの連絡調整、進行、取りまとめ、農家ほ場での現地実証、見学会の実施

作業療法士：作業療養士：作業の工夫、視点等助言

県：普及推進課、普及センター等へ協力要請（技術に関する助言等）

#### ③現地実証予定

・ぶどう：倉敷市船穂 清水孝晃氏ほ場（船穂ぶどう部会）

・桃：赤磐市山陽町 齋藤規明氏ほ場（山陽町もも部会）

### (3) 農福連携スタートアップのマニュアル作成

農福連携事例調査を通じて、作業の細分化、難易度評価、作業割当の手法等についてマニュアルを作成し、農福連携をスムーズにスタートできるよう支援する。

加えて、先進事例における工夫している点等についてYouTube動画を作成し、これから農福連携に取り組もうと考えている方に広く情報発信を行う。

## 2 施設外就労コーディネーターの育成

### 農福連携推進セミナーの開催

各地域における農福連携の主体的・自主的な取組を促進するため、農福連携推進セミナーを開催する。

参集者：先進農福取組農家や福祉事業所、市町村等関係者等事例に関係するメンバーで構成

内容：実際の農福作業における検討事項について優良事例を交えながら検討。

※コロナ対策を行い、少人数で実施。

実施時期：6月～2月 適宜 実施回数：1回以上

## 3 農林水産業経営体や福祉サービス事業者等からなる現場レベルの推進体制の強化

実態調査



～農福連携の実務的なアドバイスを行う人材を育成します～



農林水産省  
認定

農福連携技術支援者

岡山県版

# 育成研修

農業版ジョブコーチ育成研修

定員20名 受講無料



「農福連携技術支援者」は、農業者、就労系障害福祉サービス事業所の職業指導員、障害者の三者に対して農福連携を現場で実践する手法を具体的にアドバイスする専門人材です。修了試験を含む全ての研修課程を受講し、農林水産省から必要な知識と技能を身につけたと認められた方は「農福連携技術支援者」として認定されます。

日時・場所	講義内容	講師
11.7 月 ピュアリティまきび 10:00～16:10 岡山市北区下石井2-6-41	●農福連携概論 ●社会福祉と障害者福祉 ●障害者雇用と障害福祉サービス事業の仕組み、関係機関の役割	岡山県農福連携サポートセンター 岡山大学 吉利宗久教授 岡山県障害福祉課
11.8 火 ピュアリティまきび 9:00～15:50	●農業と農村社会 ●農業経営の仕組み ●障害特性と職業的課題の基礎	岡山大学 大仲克俊准教授 岡山大学 仲矢明孝教授
11.9 水 岡山県立青少年 農林文化センター三徳園 9:00～16:10 岡山市東区竹原505	●障害福祉サービス事業の運営の実務 ●農業者による農福連携の経営実務 ●障害特性に対応した農作業支援技法（実地研修）	㈱おおもり農園 大森一弘代表取締役 岡山県農福連携サポートセンター 山陽学園大学 大島珠子助教
11.17 木 倉敷市・吉備中央町 8:40～17:00	●障害福祉サービス事業の運営の実務（事業所視察）	みんな農園（倉敷市真備） アグリネット加賀（吉備中央町）
12.12 月 岡山県立青少年 農林文化センター三徳園 9:00～16:00	●農作業の流れ ●農作業の一般的な特徴 ●農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当ての技法（実地研修）	岡山県立青少年農林文化センター三徳園（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 中本英里研究員 兵庫県立大学 豊田正博教授、三徳園
12.13 火 岡山県立青少年 農林文化センター三徳園 9:00～16:00	●農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当ての技法（実地研修）	兵庫県立大学 豊田正博教授、三徳園
12.14 水 岡山県立青少年 農林文化センター三徳園 9:00～15:40	●農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当ての技法（実地研修） ●修了試験・情報交換	三徳園

応募多数の場合は、  
県内在住・在勤者を優先して  
選考の上、受講者を  
決定します。

申込期限 令和4年10月7日(金) 必着

**対象者**

- ・すでに農福連携の支援に関わっている者又はこれから関わろうとする者  
(例：農業者、農業法人、障害福祉サービス事業所のサービス管理者・職業指導員・生活支援員、  
区市町村職員、JA職員、民間企業、団体の職員、その他農福連携に関心のある者 等)
- ・農福連携技術支援者として岡山県内で活動できる者（近県の者を含む）
- ・修了試験を含む全ての研修課程を受講できる者

**その他**

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の情勢により、研修が中止される場合があります。受講者として決定した後であっても、感染の疑いのある者は、ただちに連絡をすること。また、研修期間中に、発熱等の体調不良が生じた場合は、受講を控えること。研修中、全ての受講者は、マスクを着用すること。
- ・実地研修では、農作業を行いますので、農作業に適した服装をしてください。実地研修では、農業用機械や農機具等を操作します。講師や職員等の指示に従わないで操作した場合には、危険が伴う場合もありますので、受講者各自の判断で、任意の傷害保険への加入をお勧めします。健康保険証を持参ください。
- ・農福連携技術支援者（農林水産省認定）は、国家資格ではありません。

ホームページ

<https://www.pref.okayama.jp/page/680728.html>



FAX. 086-224-1278

FAX番号はお間違えのないようお願いいたします

## 令和4年度 農福連携技術支援者育成研修 受講申込書

氏名	(ふりがな)
住所	〒
生年月日	西暦 年 月 日
性別	
職業	(勤務先の名称： ) (勤務先所在地： )
電話番号	
メールアドレス	

## 受講にあたっての配慮事項

--

## これまでの経験、保有する資格、受講した研修、活動の可能性など

これまでの経験	
保有する資格、 受講した研修など	
研修終了後に実際に 行うことが可能な活動	

## 〈注意事項〉

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今後の情勢により、研修が中止される場合があります。受講者として決定した後であっても、感染の疑いのある者は、ただちに連絡すること。また、研修期間中に、発熱等の体調不良が生じた場合は、受講を控えること。研修中、全ての受講者は、マスクを着用すること。
- ・応募者多数の場合は県内在住・在勤の方を優先して選考の上、受講者を決定いたします。

提出先

岡山県農林水産部農産課 担い手育成班

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号

FAX. 086-224-1278

メール nosan@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ

TEL. 086-226-7420

申込〆切

10月7日  
(金曜日)

# 県内の就労支援施策の対象となる障害者数 / 地域の流れ (概況)

**県内の障害者総数 約105千人中、18歳～64歳の人数 約42千人**

【内訳】身体70千人、知的19千人、精神16千人 ※難病のある人等は含まない。  
うち18～64歳の人数 (身体 約16千人、知的 約13千人、精神 約13千人)

一般就労への  
移行の現状

- ① 就労系障害福祉サービスからの一般就労移行者数  
R3: 357人 (H28年度の約1.98倍)
- ② 特別支援学校卒業生のうち約27.3%が一般就労へ移行 (H28年度の約0.97倍)

## 障害福祉サービス (就労系)

<約8,000人>

・就労移行支援	41事業所	478人
・就労継続支援A型	127事業所	2,514人
・就労継続支援B型	256事業所	4,742人
・就労定着支援	32事業所	244人

【出典】国保連データ、県障害福祉課調査 等 (R4年4月)

## 特別支援学校

卒業生 355人 (R4年3月卒)

## 就労系障害福祉サービスから 一般就労への移行者数

180人	/ H28	310人	/ H29
411人	/ H30	350人	/ R元
324人	/ R2	357人	/ R3

※H28年度の1.98倍

## 就職

100人	(A型除く)	/ H28
118人	(A型除く)	/ H29
131人	(A型除く)	/ H30
122人	(A型除く)	/ R元
108人	(A型除く)	/ R2
97人	(A型除く)	/ R3

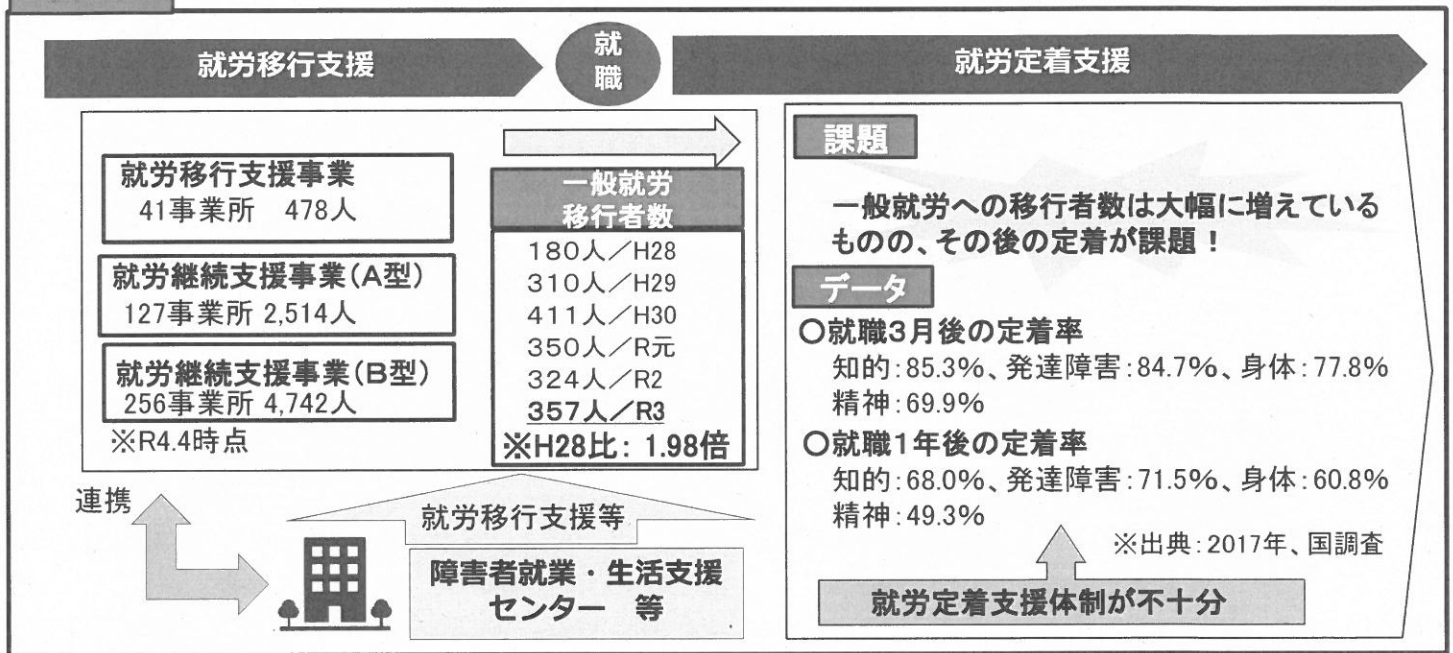
※H28年度の0.97倍

卒業・就職

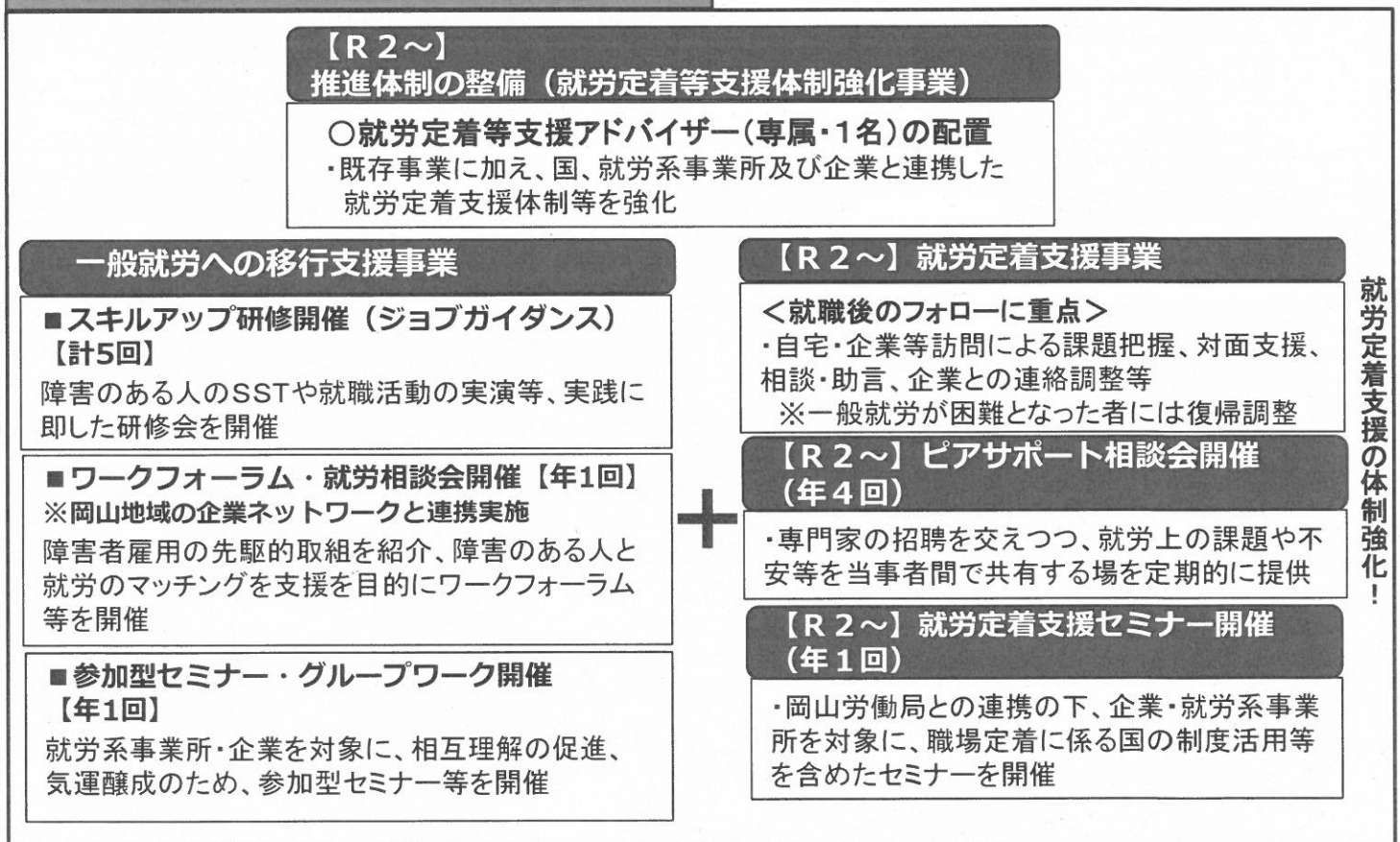
企業等

# 障害のある人の就労定着等支援事業

## 現状



## 障害のある人の就労定着等支援事業



## 【効果】

- 従前の障害のある人の「就労支援」に加え、本県独自の「就労定着」に軸足を置き取り組むことで、これまでの取組の成果を維持・拡大
  - 障害のある人の就労支援を通じた地域での自立・社会参加の促進
  - 個性と能力の発揮、生きがい創出(多様な人材の活躍・共生社会の実現に寄与)
  - 社会保障費(自立支援給付費)の抑制

# 農福連携による障害者の就農促進プロジェクト

## 概要

農業分野での障害のある人の就労の支援、工賃水準の向上や農業の支え手不足の解消等を図るため、岡山県農福連携サポートセンターを核に、各地域の農福連携の取組を支援していく。

## 実施体制

- 名称 岡山県農福連携サポートセンター
- 場所 岡山県セルフセンター内（岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ1階）
- 開設日 平成30（2018）年11月5日
- 開所日 平日10時～17時（土日・祝日は閉所）

### ■スタッフ配置

所長1名、農福連携推進員1名、農福連携アドバイザー2名（県OB）、その他4名  
※アンダーラインは農福連携専任スタッフ（3名）

### ○農福連携推進員

販路開拓や施設外就労のマッチング支援の調整・仲介役等を実施

### ○農福連携アドバイザー（県OB）

農業に取り組む福祉事業所への技術指導・助言等を実施

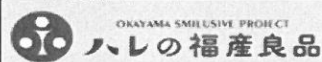
## 岡山県農福連携サポートセンター<H30～>

### ①農業に係る施設外就労のマッチング支援

就労継続支援B型事業所等を対象に、農業生産者のと福祉事業所のニーズをマッチング【R3実績】請負件数41件 人数1,400人 請負額7,000千円

### ②農産品の販路開拓や農作業の受注拡大

### ③本県独自の農福連携ブランド「ハレの福産良品」の認知度向上



### 【ブランドコンセプト】

障害のある方々や福祉に携わる人々が生産する商品に、たくさんの福を産んでほしいとの願いから「福産」と、それらの商品の品質が大変良いことを表したく「良品」と名付けました。



### ④農業に係る営農技術の指導・助言

農業の専門家（農福連携アドバイザー）を派遣

### ⑤農福連携実践体験会・研修会、スタディツアーの開催

### ⑥その他農福連携に取り組む福祉事業所等への支援、相談等への対応

## 農福連携マルシェの開催<H28～>

農業に取り組む福祉事業所の農産品・農産加工品の魅力発信や販路拡大を図るため、展示即売会を開催（年2回）予定

### 【R3実績】

新型コロナウイルスの影響から

Web上で「ノウフク応援Webマルシェ」を開催  
農林水産部門と加工部門で最優秀賞を決定



## 農福連携指導者養成農業研修コース実施<H31～>

農業と福祉をつなぐ身近な人材の育成を通じ、福祉事業所での農福連携の主体的な取組を支援

- ・対象者 福祉事業所支援員等
- ・会場 三徳園  
(立青少年農林文化センター)
- ・期間 6月～2月※年間15回程度開催（予定）

### 【R3実績】

農業研修コース 16回開催 82人参加  
農産物加工研修 8回開催 34人参加

